



Business Report

第144期【中間】

平成20年4月1日～平成20年9月30日



株主の皆さまへ

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社の第144期(2008年度)第2四半期終了時点の事業概況をご報告申し上げるにあたり、この間に株主の皆さまから賜りましたご協力、ご支援に対しまして、厚く御礼申し上げます。

当社グループは、第二次中期経営計画(2005年4月～2010年3月)を策定し、医療用医薬品事業を核として長期的な発展を遂げるための取り組みを進めております。

そして、この中期経営計画を達成するために重要な4年目となる当期を、新しい経営体制のもとでスタートさせました。

今年度におきましては、研究開発面では、日米欧3極でグローバルに通用する新薬を、継続的かつ迅速に創製し開発することに引き続き注力しております。

製造面におきましては、品質と安定供給を常に念頭に置いた上で、原材料の価格低減、工程改善などによる原価低減についての努力を続けております。



代表取締役会長

塩野元三

代表取締役社長

手代木功

また、販売面では、重点領域の製品として集中して取り組んでおります高コレステロール血症治療薬「 Crestor 」に加え、高血圧症治療薬「イルベタン」を本年7月に新発売し、循環・代謝領域におけるシェア拡大に邁進しております。また、感染症領域におけるプレゼンスの拡大や、患者さまのがん疼痛からの解放・QOLの改善に向けて、的確な情報提供活動の一層の強化を図っております。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、「 Crestor 」が引き続き大きく増加し、新製品「イルベタン」が寄与する一方、抗生物質などの売上が減少し、医療用医薬品の売上高はほぼ横ばいにとどまりました。一方、工業所有権等使用料収入の増加などにより、全体の売上高は前年同期比で微増となりました。利益面では、原価率の改善などにより研究開発費の増加を吸収し、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに前年同期に比べ増益となりました。

なお、本年9月に米国医薬品会社「 Sciele Pharma社 」との間で同社の買取について合意し、公開買付けを経て、本年10月に同社を完全子会社化いたしました。この買取により、米国での自社販売の体制を整備することができたことから、今後は自社品の開発をグローバルに加速させることによりまして、長期的な成長をさらに確かなものにしてまいります。

当期の中間配当金につきましては、1株当たり14円を実施させていただきます。（昨年度は、中間10円、期末12円、合計年間22円）

配当を中心とした株主還元につきましては、今後も業績の拡大と共に安定的に向上させていく所存です。

株主の皆さまにおかれましては、当社の事業活動にご理解をいただき、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

経営理念

シオノギの基本方針

「常に人々の健康を守るために必要な最もよい薬を提供する」

シオノギの行動方針 シオノギの基本方針(シオノギの心)を、具現化するためのものです

ミッション……

患者・家族の方々のQOL向上を実現するために、
患者・家族・医療従事者の方々により一層満足度の高い
医薬品をお届けする

私たちは基本方針に掲げる「常に人々の健康を守るために必要な最もよい薬を提供する」という理念に基づき、「患者・家族の方々のQOL向上を実現するために、患者・家族・医療従事者の方々により一層満足度の高い医薬品をお届けする」ことをミッションとし、以下の活動を通じてその具現化に専念します。

独創的な医薬品を創製し、必要としている人々に一刻も早くお届けします。

必要としている人々の声を速やかに製品に反映し、高い品質の医薬品を、安定的、経済的に製造・供給します。

適正使用に必要な情報を適時的確に提供し、医薬品の有用性をますます高めます。

ビジョン……

存在感のある強いシオノギ
私たち自身がやりがい、誇り、夢の持てるシオノギ

私たちは、私たちのミッション実現のため、世界中で患者・家族・医療従事者の方々や社会に認められる事業展開を行なう「存在感のある強いシオノギ」であるとともに、「私たち自身がやりがい、誇り、夢の持てるシオノギ」であることを目指し、第2次中期経営計画を達成します。

バリュー……

顧客志向、信頼、プロフェッショナル、現場重視、個の尊重

私たちは、私たちのミッション、ビジョンを実現するために、上記の5つの点を最も重要な行動規範とすることを決意しました。

この5つの誓い(シオノギバリュー)を、高い倫理観をもって実行することにより、人々の共感を得る会社でありつづけたいと思います。

経営戦略

当社グループは、第二次中期経営計画におきまして、以下のテーマを中心に、医療用医薬品事業を核として長期的な発展を遂げるための施策を積極的に進めております。

- 研究開発活動におきましては、グローバルに通用する新薬を継続的に創製し開発するための体制を整備してまいります。そのため、現在開発中のものに加え、国際競争力を持った開発品の継続的な創出と、日米欧3極同時開発に対応できる組織体制の整備・人材の育成、戦略的なアライアンスに注力いたします。
- 営業活動におきましては、新製品ヘリソースを集中しシェア拡大に努めるとともに、がん疼痛からの解放・QOLの改善に向けての活動を強化してまいります。
- 将来の飛躍に向けて、創薬シーズの探索の強化や積極的なインライセンس、海外展開のための体制整備に加え、製造、研究開発への設備投資など、2009年度までに戦略的な投資を行う予定です。

医療用医薬品の開発を中心としたグローバル化の展開を進めると同時に、こうした活動を支えていくために、国内の収益体制をより万全なものとするにも取り組んでまいります。製造面や管理業務面では、グローバル対応能力の向上とともに一層の生産性の向上や効率化を進め、また、研究所新棟や固形製剤包装棟の建設などの戦略的な投資につきましても引き続き積極的に進めてまいります。

第二次中期経営計画の遂行を通じて、当社の基本方針の具現化を図り、製薬企業としての存在感の一層の向上に努めてまいります。

なお、目標とする経営指標は以下のとおりです。

2009年度において	連結売上高	2,700億円
	連結営業利益	800億円
	連結当期純利益	480億円

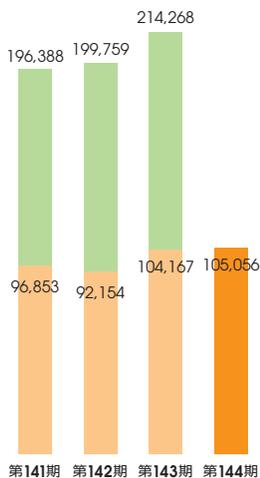
利益配分に関する基本方針

当社は、中長期的な視点での企業価値増大を図るため、事業投資を積極的に行うとともに、配当につきましても、各期の業績に応じた配分を基本におきながら、これを安定的に向上させることを目指しております。内部留保資金につきましては、新製品の開発に関する研究開発投資等、将来の事業展開に向けた資金需要を中心として充当してまいります。

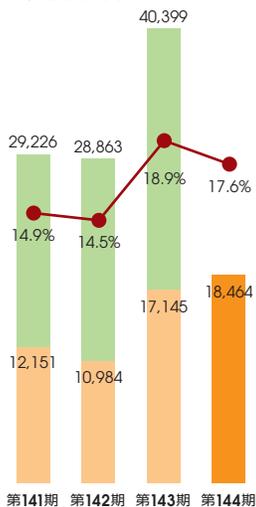
なお、今後の配当性向につきましては、2009年度の指標として35%（連結配当性向）を目標といたします。

連結財務指標

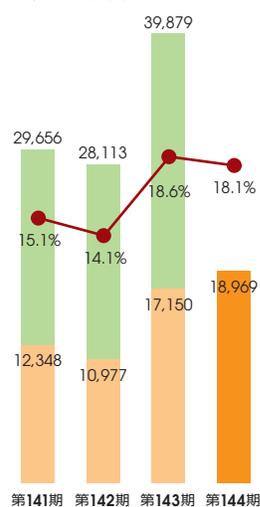
◆売上高



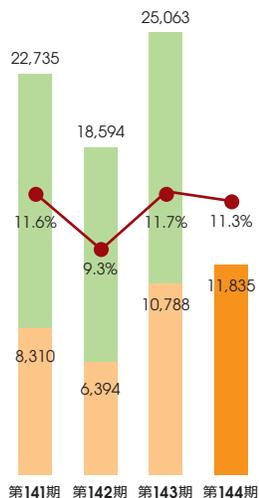
◆営業利益



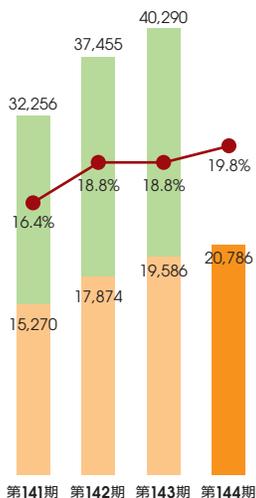
◆経常利益



◆当期純利益



◆研究開発費



単位：百万円

■ 年間

■ 第2四半期(累計)

● 売上高に対する比率

当期の概況

販売の状況

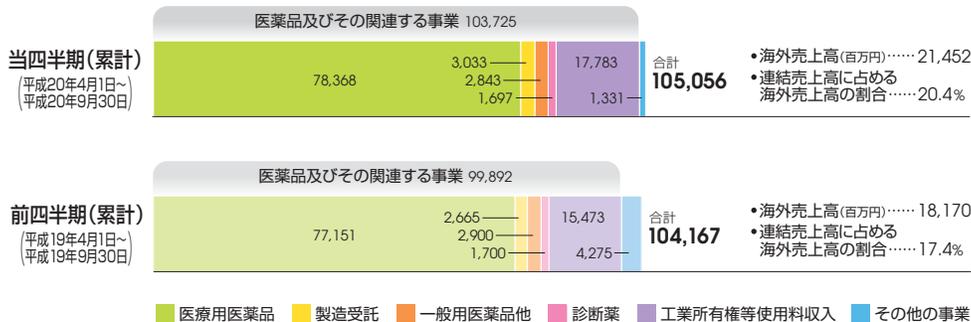
当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は1,050億5千6百万円で前年同期に比べ0.9%の増となりました。

医薬品及びその関連する事業では、「クレストール」の売上が大きく増加し、新製品「イルベタン」が寄与する一方で、薬価改定や市場の縮小の影響などにより抗生物質などの売上が減少し、医療用医薬品全体の売上高はほぼ横ばいにとどまりました。また、アストラゼネカ社による海外での「クレストール」の販売増により「工業所有権等使用料収入」が増えたほか、ジョンソン・エンド・ジョンソン社向け「輸出用ドリベナム」が増加しました。

この結果、「医薬品及びその関連する事業」全体の売上高は、1,037億2千5百万円となり、前年同期に比べ3.8%の増加となりました。

その他の事業の売上高は、シオノギエンジニアリングサービス(株)の工事受託の減少などにより13億3千1百万円となり、前年同期比68.9%の減少となりました。

◆セグメント別売上高 (単位:百万円)



利益の状況

「工業所有権等使用料収入」の増加や工事受託の減少などの部門構成の変化により原価率が改善し、売上総利益は3.7%の増となりました。販売費及び一般管理費における研究開発費の増加はありましたが、売上総利益の増加で吸収し、営業利益は184億6千4百万円で前年同期比7.7%の増となり、経常利益も189億6千9百万円で前年同期比10.6%の増となりました。また、四半期純利益は118億3千5百万円で前年同期比9.7%の増となりました。

研究開発の状況

国内においては、高血圧症治療薬「イルベタン」および外用尋常性ざ瘡(ニキビ)治療薬「ディフェリンゲル」の上市を行いました。さらには、本年10月に特発性肺線維症治療薬「ピレスパ」(一般名:ピルフェニドン)の製造販売承認を取得し近く発売の予定です。

また、新たにがん疼痛治療薬の国内におけるフェーズⅢ試験と、導出を視野に入れた抗悪性腫瘍剤の欧州におけるフェーズⅠ試験準備を開始しました。

海外におきましては、シオノギUSA, Inc.を拠点として肥満症治療薬、アトピー性皮膚炎治療薬などを、また、シオノギGSKにてHIV感染症治療薬の開発を、積極的に進めております。

こうした活動の結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループ全体の研究開発費は、207億8千6百万円となり、売上高に対する比率は19.8%となりました。

◆新製品

2008年 7月 発売	イルベタン®錠 高血圧症治療薬
2008年10月 発売	ディフェリン®ゲル0.1% 外用尋常性ざ瘡(ニキビ)治療薬



◆新薬開発状況 (平成20年11月現在)

開発No.	適応症	開発地域	ステージ					
			フェーズI 準備中	フェーズI	フェーズII	フェーズIII	申請中	承認
S-7701	特発性肺線維症	日本	[進捗バー]					2008.10
LY248686	うつ	日本	[進捗バー]					2008.1
LY248686	糖尿病性神経因性疼痛	日本	[進捗バー]					
S-4661	各種細菌感染症(小児)	日本	[進捗バー]					
S-4661	重症感染症(用法・用量追加)	日本	[進捗バー]					
S-021812	インフルエンザ感染症	日本	[進捗バー]					
S-811717	各種癌における疼痛	日本	[進捗バー]					
S-013420	細菌感染症	日本	[進捗バー]					
NS75B	前立腺肥大症	日本	[進捗バー]					
NS75A	子宮筋腫	日本	[進捗バー]					
S-777469	アトピー性皮膚炎	日本	[進捗バー]					
		米国	[進捗バー]					
S-2367	肥満症	米国	[進捗バー]					
S-0139	脳血管障害	日本	[進捗バー]					
		欧州	[進捗バー]					
S-349572		米国	[進捗バー]					
S-265744	HIV感染症	米国	[進捗バー]					
S-247303		米国	[進捗バー]					
S-888711	血小板減少症	日本	[進捗バー]					
S-555739	アレルギー疾患	日本	[進捗バー]					
		欧州	[進捗バー]					
S-222611	悪性腫瘍	欧州	[進捗バー]					

当期の概況

設備投資

製造設備の増強や研究設備の拡充などを中心として積極的に投資を行い、当第2四半期連結累計期間における設備投資額は、総額59億円となっております。

決算の概要

連結 四半期連結損益計算書

科 目	当四半期(累計)	前四半期(累計)	増減額
	(平成20年4月1日~ 平成20年9月30日)	(平成19年4月1日~ 平成19年9月30日)	
	金 額	金 額	金 額
	(百万円)	(百万円)	(百万円)
売上高	105,056	104,167	889
売上原価	32,979	34,685	△ 1,706
売上総利益	72,077	69,482	2,595
販売費及び一般管理費	53,613	52,337	1,276
(うち研究開発費)	(20,786)	(19,586)	(1,200)
営業利益	18,464	17,145	1,319
営業外収益	1,664	1,908	△ 244
受取利息	628	670	△ 42
受取配当金	644	630	14
その他	392	608	△ 216
営業外費用	1,158	1,903	△ 745
支払利息	35	43	△ 8
寄付金	632	532	100
その他	491	1,327	△ 836
経常利益	18,969	17,150	1,819
特別利益	212	276	△ 64
投資有価証券売却益	212	276	△ 64
特別損失	272	25	247
災害による損失	157	—	157
たな卸資産評価損	89	—	89
投資有価証券売却損	25	25	0
税金等調整前四半期純利益	18,909	17,401	1,508
法人税、住民税及び事業税	6,026	3,737	2,289
法人税等調整額	1,027	2,868	△ 1,841
少数株主利益	19	6	13
四半期純利益	11,835	10,788	1,047

連結 四半期連結貸借対照表

科目	当四半期	前期	増減額
	(平成20年9月30日現在)	(平成20年3月31日現在)	
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)
【資産の部】			
流動資産	218,581	194,963	23,618
固定資産	197,204	218,739	△ 21,535
有形固定資産	71,207	70,377	830
無形固定資産	8,871	5,618	3,253
投資その他の資産	117,125	142,744	△ 25,619
資産合計	415,786	413,703	2,083
【負債の部】			
流動負債	47,692	42,443	5,249
固定負債	26,402	29,024	△ 2,622
負債合計	74,094	71,468	2,626
【純資産の部】			
株主資本	327,615	320,038	7,577
資本金	21,279	21,279	0
資本剰余金	20,227	20,227	0
利益剰余金	305,622	297,811	7,811
自己株式	△ 19,514	△ 19,280	△ 234
評価・換算差額等	13,751	21,889	△ 8,138
その他有価証券評価差額金	17,853	22,068	△ 4,215
繰延ヘッジ損益	△ 3,956	—	△ 3,956
為替換算調整勘定	△ 145	△ 178	33
少数株主持分	324	307	17
純資産合計	341,692	342,235	△ 543
負債純資産合計	415,786	413,703	2,083

(注)有形固定資産の減価償却累計額

166,844百万円

164,529百万円

連結 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	当四半期(累計)	前四半期(累計)
	(平成20年4月1日～ 平成20年9月30日)	(平成19年4月1日～ 平成19年9月30日)
	金 額 (百万円)	金 額 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	18,342	9,178
税金等調整前四半期純利益	18,909	17,401
減価償却費	5,549	4,711
資産・負債増減等	1,387	△ 5,806
法人税等の支払額	△ 7,504	△ 7,128
投資活動によるキャッシュ・フロー	8,710	△ 8,598
定期預金の払戻・預入	△ 175	△ 117
有形固定資産の取得・売却	△ 6,108	△ 4,772
投資有価証券の取得・売却等	19,184	△ 3,107
資金貸付けの回収による収入	3	312
その他	△ 4,193	△ 914
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,630	△ 4,081
配当金の支払額	△ 4,020	△ 2,720
少数株主への配当金の支払額	△ 2	△ 2
その他	△ 607	△ 1,358
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 143	87
現金及び現金同等物の増減額	22,280	△ 3,414
現金及び現金同等物の期首残高	67,609	74,546
現金及び現金同等物の四半期末残高	89,889	71,131

単体 経営成績

科 目	当四半期(累計)	前四半期(累計)	増減額
	(平成20年4月1日～ 平成20年9月30日)	(平成19年4月1日～ 平成19年9月30日)	金 額 (百万円)
	金 額 (百万円)	金 額 (百万円)	金 額 (百万円)
売上高	100,043	96,253	3,790
営業利益	16,284	15,141	1,143
経常利益	17,935	15,958	1,977
四半期純利益	11,451	9,069	2,382

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間の「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、税金等調整前四半期純利益、減価償却費などによる増加や、法人税等の支払額などによる減少があり183億4千2百万円のプラスとなりました。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、投資有価証券の売却により、87億1千万円のプラスとなりました。また、「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、配当金の支払などにより、46億3千万円のマイナスとなりました。

この結果、当期末の「現金及び現金同等物の四半期末残高」は、前期末にくらべ222億8千万円多い898億8千9百万円となりました。

通期の見通し

今後も、医療費削減圧力は依然として強く、より一層厳しい市場環境となることが予想されますが、「クレストール」「イルベタン」を中心とした国内医療用医薬品の販売拡大に加えて、「輸出用ドリベネム」の販売増や「工業所有権等使用料収入」の増加も期待されることから、期初予想の達成を見込んでおります。

利益面では、研究開発費の増加が見込まれますが、売上の拡大によりこれを吸収し、営業利益、経常利益、当期純利益につきましても期初予想の達成を見込んでおります。

なお、「サイエル社」買収による完全子会社化に伴い、平成20年度の連結業績に影響を与える可能性があります。現在、無形資産、インプロセスR&D費やのれんの評価算定を行っており、影響額が確定次第速やかに公表する予定にしております。

◆通期の見通し

連結			
売上高	2,310億円	(前期比	7.8%増)
営業利益	480億円	(前期比	18.8%増)
経常利益	480億円	(前期比	20.4%増)
当期純利益	300億円	(前期比	19.7%増)
単体			
売上高	2,200億円	(前期比	9.5%増)
営業利益	445億円	(前期比	22.3%増)
経常利益	460億円	(前期比	23.5%増)
当期純利益	290億円	(前期比	29.0%増)

米国医薬品会社 Sciele Pharma, Inc.の買収について



9月1日、当社と米国 Sciele Pharma, Inc. (以下、サイエル社)は、株式公開買付けによる買収に合意したことを発表し、10月9日に、サイエル社は米国統括会社 Shionogi USA Holdings, Inc.の100%子会社となりました。

当社では、第二次中期経営計画において、グローバルに通用する自社製品の開発を最重要課題と位置づけて取り組んでまいりました。その結果、自社で創製された開発品が充実し、また米国子会社 シオノギUSA, Inc.を通じて積極的に海外

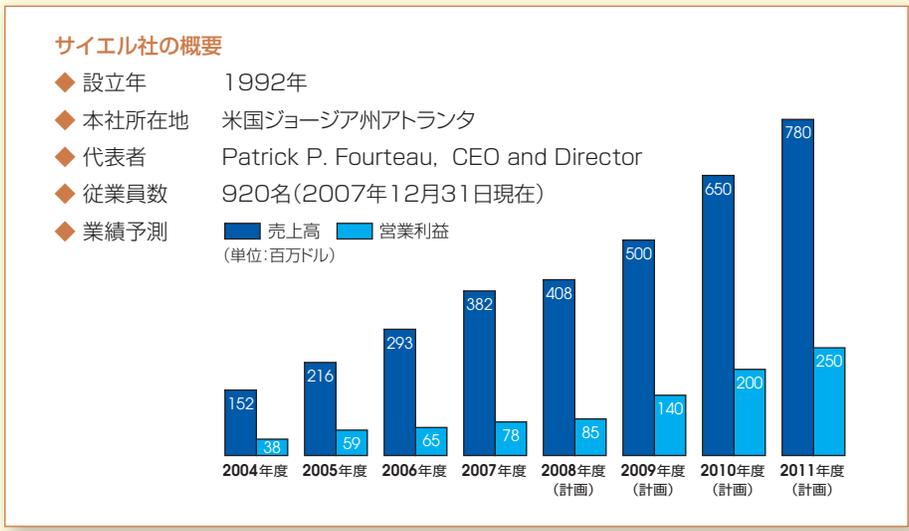
での臨床試験を実施できるようになってまいりました。それに伴い、海外での販売体制の整備が、中長期的な成長に向けた課題となってまいりました。

今回のサイエル社買収により、世界で最も大きな市場である米国におきまして、自社販売の体制はもちろん、米国での事業確立に向けた基盤を整備することができました。現在開発中の自社製品の価値を最大化し、今後の長期的な成長をより確実なものにするためにも、非常に重要な投資であると考えております。

買収の目的

1. 自社パイプラインを、米国において自社販売することによる収益力の向上
2. 米国における開発活動、インライセンス活動の機能強化
3. 製造関係の技術情報の交換によるグループとしての原価低減
4. 米国での事業運営のインフラ整備

サイエル社は、米国市場において循環・代謝領域、婦人科領域、小児科領域等に特化した事業を展開する製薬企業です。同社は、患者第一主義、健康と生活の質の改善、起業家精神、革新性、実行スピード、ビジネスのシンプルさ、チームワークといった、特徴的な事業基盤に基づいた活動を行っており、こうした考え方や活動は、シオノギの企業理念や方向性と一致しております。



サイエル社の売上高・利益は、ここ数年、年平均20%超の成長を示しております。また、サイエル社は2008年には上述の特化領域におきまして6品目の新製品を発売し、2009年にはさらに6品目の新製品を上市する予定です。

当社におきましても、今回のサイエル社買収による効果を最大限に発揮するために、自社開発品の充実およびシオノギUSA, Inc.を中心とする海外での開発体制の整備をさらに進めてまいります。

これらの効果により、今後の米国でのシオノギグループとしての売上・利益の拡大がさらに加速されることが期待されます。

株式の概況

(平成 20年9月30日現在)

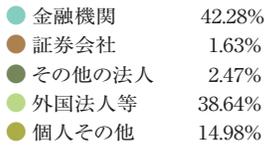
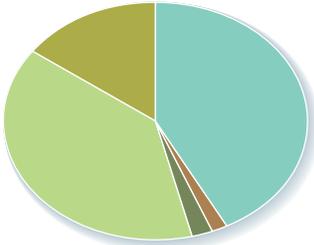
◆株式の状況

- 発行可能株式総数 1,000,000,000株
- 発行済株式の総数 351,136,165株
- 株主数 19,530名
- 株主1人当たり平均持株数 17,979株
- 大株主

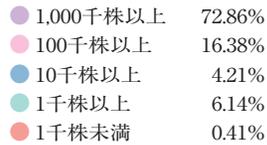
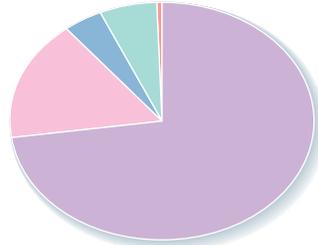
株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
1 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	20,561	5.86
2 住友生命保険相互会社	18,604	5.30
3 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	18,565	5.29
4 塩野義製薬株式会社	16,120	4.59
5 日本生命保険相互会社	13,138	3.74
6 ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカUNT	13,134	3.74
7 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	10,690	3.04
8 日本興亜損害保険株式会社	10,171	2.90
9 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	9,485	2.70
10 ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	8,161	2.32

◆株式の分布状況

< 所有者別株式分布 >



< 所有数別株式分布 >



◆株価および株式売買高の推移



概要

(平成20年9月30日現在)

会社の概要

商号	塩野義製薬株式会社 (SHIONOGI & CO., LTD.)
創業	1878年(明治11年)3月17日
会社設立	1919年(大正8年)6月5日
決算期	3月31日
事業内容	医薬品、診断薬などの製造・販売
資本金	212億79百万円
従業員数	4,351名



<http://www.shionogi.co.jp/>

役員

取締役

代表取締役 会長	塩野 元三
代表取締役 社長	手代木 功
取締役 相談役	宮本 梨
取締役	戸梶 幸夫
取締役	三野 泰宏

監査役

常勤監査役	大谷 光昭
常勤監査役	小松 聰司
監査役	永田 武全
監査役	横山 進一

(注) 監査役 永田武全 及び 監査役 横山進一は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

執行役員

専務執行役員	戸梶 幸夫
専務執行役員	三野 泰宏
常務執行役員	福田 卓雄
常務執行役員	久米 龍一
執行役員	近藤 裕郷
執行役員	前田 均
執行役員	納田 敬一朗
執行役員	澤田 拓子
執行役員	真下 重信

事業所

(平成20年9月30日現在)

本 社

〒541-0045 大阪市中央区道修町3丁目1番8号
Tel 06-6202-2161

支 店

東 京 支 店

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2丁目17番5号
シオノギ渋谷ビル
Tel 03-3406-8111

名 古 屋 支 店

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2丁目9番地
スカイオアシス栄
Tel 052-957-8271

福 岡 支 店

〒810-0072 福岡市中央区長浜1丁目1番35号
新KBCビル
Tel 092-737-7750

札 幌 支 店

〒064-0807 札幌市中央区南七条西1丁目13番地
第3弘安ビル
Tel 011-530-0360

研 究 所

中 央 研 究 所

〒553-0002 大阪市福島区鷺州5丁目12番4号
Tel 06-6458-5861

新 薬 研 究 所

〒561-0825 豊中市二葉町3丁目1番1号
Tel 06-6331-8081

医 学 研 究 所

〒566-0022 摂津市三島2丁目5番1号
Tel 06-6382-2612

油 日 ラボラトリーズ

〒520-3423 甲賀市甲賀町五反田1405番地
Tel 0748-88-3281

工 場

摂 津 工 場

〒566-0022 摂津市三島2丁目5番1号
Tel 06-6381-7341

金 ヶ 崎 工 場

〒029-4503 岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根森山7番地
Tel 0197-44-5121

事 業 所

杭 瀬 事 業 所

〒660-0813 尼崎市杭瀬寺島2丁目1番3号
Tel 06-6401-1221

物 流 セ ン タ ー

シオノギ物流センター

〒566-0022 摂津市三島2丁目5番1号
Tel 06-6381-7342

シオノギ東京物流センター

〒270-0233 野田市船形字上原寺1513番地
中央運輸株式会社 野田営業所内
Tel 04-7127-3000

海 外

(事業所・関係会社)

Shionogi & Co., Ltd.

Taipei Office

4F, No. 2, Sec. 2, Nanking East Road

Taipei 10457, Taiwan

Tel +886-2-2551-6336

Shionogi & Co., Ltd.

Shanghai Office

Far East International Plaza 3F, 306A

No. 319 Xian Xia Road

Shanghai 200051

People's Republic of China

Tel +86-21-6235-1311

Taiwan Shionogi & Co., Ltd.

4F, No. 2, Sec. 2, Nanking East Road

Taipei 10457, Taiwan

Tel +886-2-2551-6336

Shionogi USA, Inc.

100 Campus Drive, Florham Park

NJ 07932, U.S.A.

Tel +1-973-966-6900

株主メモ

- ◇ 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- ◇ 定時株主総会 6月
- ◇ 株主確定日
 - 定時株主総会 3月31日
 - 期末配当金 3月31日
 - 中間配当金 9月30日
- ◇ 単元株式数 1,000株
- ◇ 公告掲載方法 電子公告 当社インターネットホームページ(<http://www.shionogi.co.jp/>)に掲載しています。
- ◇ 上場証券取引所 東京・大阪
- ◇ 証券コード 4507
- ◇ 株主名簿管理人 住友信託銀行株式会社 (大阪市中央区北浜四丁目5番33号)
- 同 事務取扱場所 住友信託銀行株式会社 証券代行部 (大阪市中央区北浜四丁目5番33号)
- (郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
- 住友信託銀行株式会社 証券代行部
- (電話照会先)
 - ・住所変更等用紙のご請求 ☎0120-175-417
 - ・その他のご照会 ☎0120-176-417
- (インターネットホームページ) <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>
- 同 取次所 住友信託銀行株式会社 全国各支店

《株券電子化に伴うお知らせ》

- ◆ 平成21年1月5日(月)に株券電子化が実施されます。
- ◆ 同封のリーフレットをご覧ください、ご自身のご所有株式についてご確認ください。
- ◆ 「証券保管振替制度」のご利用の有無により、ご照会先・お取扱いが異なりますので、ご注意ください。

	株券電子化後の 株式に関する各種お手続き・ご照会先	株券電子化前後の 単元未満株式買取請求のお取扱い
「証券保管振替制度」をご利用の株主様	・株主様が口座を開設されている証券会社にお問合せください。	・証券会社により取扱いが異なることが考えられますので、株主様が口座を開設されている証券会社にお問合せください。
「証券保管振替制度」をご利用でない株主様	・ご所有株式は、「特別口座」(弊社の株主名簿管理人である住友信託銀行株式会社に開設)に記録されます。 ・お問合せは、特別口座管理人である住友信託銀行株式会社までお願いいたします。 (問合せ先は上記の株主メモをご参照ください。)	・平成21年1月5日(月)～平成21年1月25日(日)までは、ご請求をお受けすることができません。 ・平成20年12月25日(木)～12月30日(火)までのご請求受付分につきましては、買取価格はご請求受付日の終値を適用いたしますが、買取代金のお支払は平成21年1月26日(月)以降となりますので、ご了承ください。

《単元未満株式の買取手数料の無料化について》

ご負担いただいております手数料を平成21年1月5日(月)以降のご請求から無料(証券会社の手数を除く。)といたしますので、単元未満株式の買取制度のご利用をご検討くださいますようお願い申し上げます。
お手続きの詳細は、上記「株主名簿管理人」または「株主様が口座を開設されている証券会社」までお問合せください。

◆ 株券電子化に関する情報・相談窓口

- ・証券決済制度改革推進センターのホームページ <http://www.kessaicenter.com/>
- ・「株券電子化」コールセンター ☎0120-77-0915 (平日・土曜/9:00～17:00)

